

本日も熊本労災病院の HP を訪れていただきありがとうございます。

6月ももう半分以上が過ぎ、一年で一番昼が長い日々になりました。梅雨ではありますが、朝晩すごしやすい日も多く、通勤にはありがたいことです。朝のバスでは、新年度になって急に高校生の利用が増え、座る席を探すようになりました。自分も55年以上前は高校バス通学でしたが、あまり座れることは多くなく、うらやましいことです。

当院の HP ですが、今年度になり少しずつ手を入れて見やすくしています。ロゴも変わっていますので念のため。内容でも何でもご意見があれば皆様からも募りたいと思います。以前は、総務課員がほぼ一人で担当していましたが、昨年から新設した、「HP・メディア対応ミーティング」という多職種で構成するチームが週1回短時間集まり、ネタ探しや FB やインスタも含めた公表内容について討議し、それを基礎に更新を行っています。現在の次長が、オタクとはいませんが、どこの職場でも一人はいるこの領域に明るいかたで、牽引役として活躍しています。院内全面 Wi-Fi 整備も彼のやる気によるところも大きかったです。当院は、同規模ベッド数の他病院などに比して、総職員数は非常に少なく、とくに診療機能を下支えする事務職員が極めて限られています。医師・看護師はたしかに必須ですが、今や病院は多くの職員の協働でなりたっています。労災病院のように幹部が全国転勤するような病院であっても、特に事務組織では継続性が非常に重要で、時の在籍者の能力に依存し、その人がやめたらたちまちその面で低下する、というのではいつまでたっても安定的進歩が見込めません。優秀なひとが蓄積していくのがベストですが、それができないなら、できるだけ仕事を共有し、組織としてことにあたることをさらに追求する必要があると思っています。今、手術室や ICU が入る新棟の設計に入っています。3年以内に、南駐車場の西半分に3階建てができる予定ですが、当然、残りの病棟などはどうなるんだ、という思いが多くの職員からも上がっています。ですから、新棟後の全体改築グランドデザインを含めて検討しています。当然私は任期を過ぎているでしょうが、これを全職員で共有し、将来につなげたいと思います。

6月初めに、ジャパンハートという NGO の活動の一環として、その要請により、ミャンマーとラオスに行って、小児外科領域での医療支援およびそのための現地調査を行いました。ジャパンハートは、日本の吉岡秀人先生という小児外科医が創設した医療ボランティア組織で、カンボジア、ミャンマーラオスなどで積極的は医療支援活動を行っています。今回は両国のいずれも公立のこども専門病院に行きました。ミャンマーは、治安はすでに落ち着いていますが、クーデター以降、民主派を中心にした医療者の、政府に対する「不服従運動」により多くの医療者が離職し、実動人員が最盛期の2割程度になっていました。日本の感覚でいえば、たとえ国の体制が変わっても医療者は面従腹背で自分の思うところを行えばよ

い、と思われるかもしれませんが、彼の地では、そんな甘いことではなく、二つの勢力の狭間で、どちらに与するかも簡単に言えないような環境でした。全国一と言われる首都ヤンゴンの小児病院でも医療環境は日本に比して極めて悪く、小児外科病棟では新生児を含めて50人以上が入院していて、大部屋にベッドがびっしりと入り、一つのベッドを二人で共有している入院患者さんもいる状態でした。看護師も少なく、手術直後の患者でもモニターもついていません。でも、ここで治療が受けられるだけまだましなのだと皆言っていました。日本の医療事情に普段不満を感じますが、今は、逆にほんとうに素晴らしい国に住んでいることを実感します。ただ、母親の付き添いは、日本もミャンマーも変わりません。ミャンマーのほうが、母親の休むスペースがさらに少ないくらいで、疲弊して心配顔でずっと子どものそばに付いている母親をみると、そのつらさを慮ると同時に、日本でもこの点の改善がなお急務だと実感しました。手術を4件しましたが、労災病院手術室から借用したいつもの器具は重宝しました。どこに行っても同じ病気にやることはいっしょで、ちょっと部屋が暑くて汗だくになったくらいでした。手術の合間のマンゴーは最高で、現地でも今が旬だということで、日本での価格と希少価値を伝えると、これでもかとお出してくださって、堪能して帰ってきました。ミャンマーもラオスも、とてもみなさん親切なかたばかりでした。

さて、暑くなってきて、アイスの恋しい季節です。ガリガリ君とうアイスはご存じでしょうか。当院のファミマにもあります。あえて固有名詞を出すのは、これが単なるアイスではないからです。3年前に、日本緩和医療学会が、「緩和ケアを受ける患者さんの、生活の質向上に多大な貢献をされた」、ということで感謝状を贈呈されたのです。いろいろな味があり、私は個人的には梨味が好きなのですが、何も食べられないひとでも、基本のソーダ味が特に好まれるようで、当院でも緩和ケアナースの推奨で、ファミマに置かれることになりました。ただ、販売数が一定以下だと撤去の憂き目にあうということで、これ幸いと私は時に二本ずつ買って院長室の冷凍庫に蓄えています。1本61Kcal というのも罪悪感がなくありがたいのです。しかも、なんと、最近、「1本当り」が出たのです。ガリガリ君にくじがあるとは知りませんでした。みなさんも、どしどし買って、トライしてみてください。

今年は、球磨川まつりも例年通り開催予定で、7月からは、みんなが忘れていた踊りの練習も始まるでしょう。世の中も、そして病院も、決して良いことばかりではありませんが、前を向いて生きていけば、きっと良いこともあるでしょう。梅雨と暑さに負けずにがんばりましょう。